



1リットルの涙 —難病と闘い続ける少女亜也の日記

1りっとるのなみだ—なんびょうとたたかいつづけるしょうじょあやのにつぎ

著 木藤亜也

この本は、亜也さんの日記をもとに、亜也さんのお母さんが筆写するなどして、一冊の本になったものです。中学生のころに脊髄小脳変性症という病気になり、不自由な生活を送る中で、家族や友達に助けられ、一生懸命生きてきました。けれど、病状は悪化する一方でした。そんな亜也さんの生活や思いが、亜也さん本人の目線で書かれているので、すごく気持ちが伝わってくる本です。私はこの本を読んで、家族や友達のことをもっと大切に思うようになりました。そして、生きるということの大切さを知りました。ぜひ読んでみて下さい。／牧の池中 R.H

『1リットルの涙』は、映画やドラマにもなりました。



“It” (それ) と呼ばれた子シリーズ

それとよばれたこしりーず

表紙: “It” と呼ばれた子 幼年期

著 デイヴ・ペルザー 訳 田栗美奈子

この本は母親から虐待を受けた著者が、その体験を自らつづったものです。母親による背筋も凍るような仕打ちが、被害者である子どもの視点で語られています。兄弟の中でただ一人、食事もなく与えられず、残酷な暴力を受け、人間として認めてさえもらえない。身も心も深く傷つきながらも少年は必死に生き抜いていきます。とても胸は痛みますが、悲しいだけの物語じゃなくて、時として希望の光ものぞき、「人間の強さ」を教えられます。ぜひ読んでみて下さい。／沢上中 K.I

読むのがつらくなる内容ですが、困難を乗り越えた力強さを感じます。



オール1の落ちこぼれ、教師になる

おーる1のおちこぼれ、きょうしになる

著 宮本延春

この本は作者の実話です。作者は今、高校の教師なのですが、中学生時代、国・数・理・社・英・音・体・技・美のすべてがオール1だったのです。今、勉強が思うようにできなくて、なやんでいるひとにオススメの本です。この本は、作者の勉強方法が載っているので、きっと自分なりの勉強方法が見つかると思います。作者がどんなことがあっても夢をあきらめない気持ちにとっても感動します。／浄心中 C.O

宮本さんが10代の人たちに向けて書いた『未来のきみが待つ場所へ』や『キミのためにできること』もぜひ読んでみてください。



五体不満足

ごたいふまんぞく

作 乙武洋匡 絵 武田美穂

生まれつき手足のない乙武さんは、いつも前向きにいきいきと毎日を送っています。この本では、乙武さんが次のようなことを強調しています。「障害を持っても、ボクは毎日が楽しいよ」。障害を持つ人は世界中にたくさんいます。障害のある人を見ると、どうしても「特別な人」ととらえてしまいがちですが、この本は、本当は「特別な人」ではないということを学ばせてくれました。／植田中 Y.H

乙武さんは、教員免許を取り、現在は小学校の先生として活躍しています。



035

い かな
生き方

ヴィレッジブックス

916

キュウリは 真っ直ぐじゃないといけないの？

きゅうりはまっすぐじゃないといけないの？

著 くり き ひろ み
栗木宏美

作者の栗木さんは、幼い時に脳性小児麻痺と診断されて、手と足が少し不自由で言語障害がある方です。この本には、幼い頃いじめられた経験や障害者に対する考えが書かれています。私はこの本の中の「綺麗なキュウリの中にまがったキュウリが入っていれば、たちまちつまみ出され…、私はそんなまがったキュウリのような存在だと思おう」という言葉に心をうたれました。あなたは見た目だけで人を判断していませんか？と問いかけられているようでした。／牧の池中 H.A

この本には、詩人でもある栗木さんの詩も掲載されています。



036

い かな
生き方

いわなみ しよ てん
岩波書店

953

星の王子さま

ほしのおうじさま

作 サン＝テグジュペリ 訳 内藤濯

砂漠に不時着した飛行士と宇宙の小さな星からやってきた王子さまの話です。この本には、つい忘れてしまうような大切なことが、たくさん書いてあります。王子さまは、たくさんの出会いを通して、大切なことを学んでいきます。「たいせつなことはね、目に見えないんだよ…」。これは私が、この話の中で、一番気に入った言葉です。とてもおもしろいのでぜひ読んでみて下さい。／浄心中 A.O

『星の王子さま』は、いろいろな人が翻訳して、出版されています。それを読み比べてみるのもおもしろいでしょう。